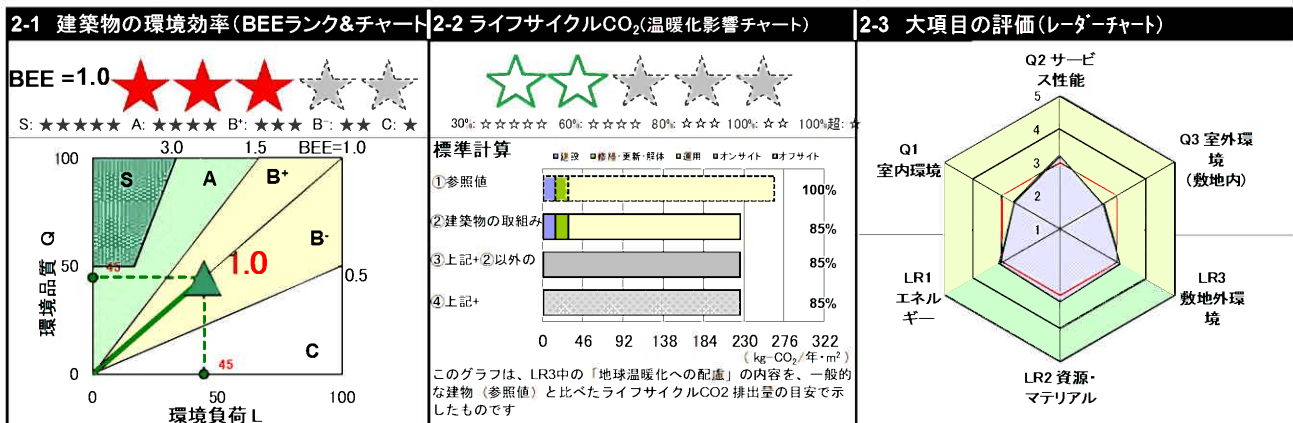
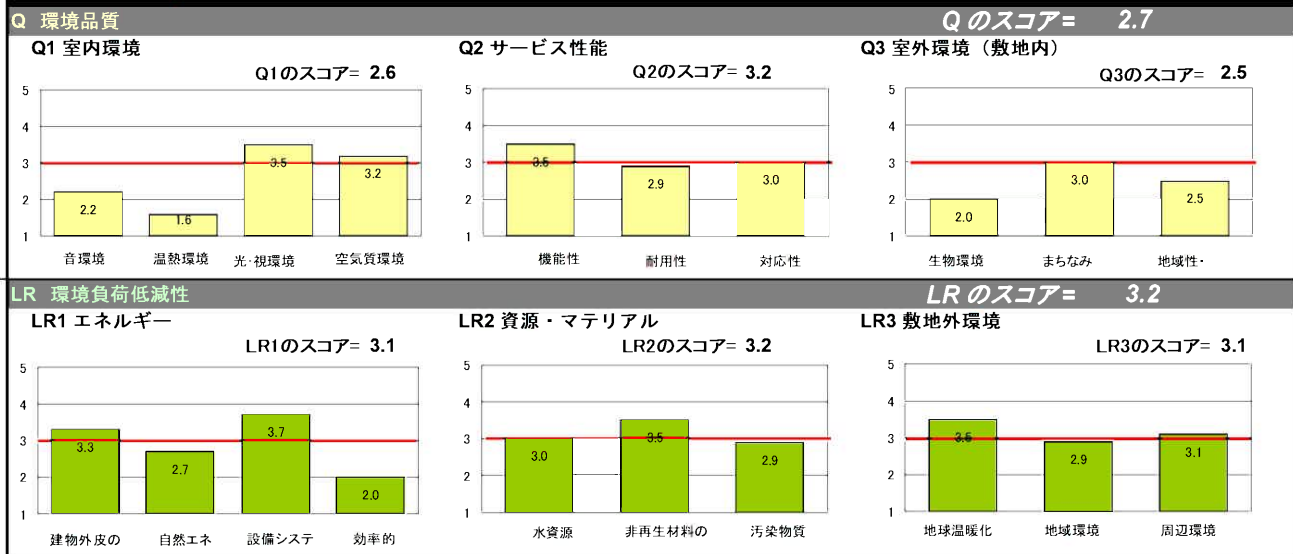




1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)ツクイ札幌山鼻	階数	地上5F	
建設地	札幌市中央区南14条西18丁目34-1	構造	RC造	
用途地域	準住居地域、準防火地域	平均居住人員	189 人	
気候区分	2地域	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	病院集合住宅、工場	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2018年12月 予定	評価の実施日	2017年7月24日	
敷地面積	1,773 m ²	作成者		
建築面積	820 m ²	確認日	2017年7月24日	
延床面積	2,941 m ²	確認者		



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合 道路、隣地から十分にセットバックし、周囲に圧迫感のない配置計画とする。また、外観の色彩は街並みに配慮し、アースカラーを基調とした落ち着いたデザインとする。		
A 省エネルギー 窓には「二重サッシ」、屋根には「遮熱仕上塗料」を使用し外気の影響を低減する。設備機器には高効率空調機、LED照明を使用し省エネルギーに取り組む。	B 省資源等 建材の定尺を考慮した天井高さの設定や、区画壁にt=12.5厚のPBを使用し一般壁へ転用可能にするなど、材料ロスを減らす工夫をしている。トイレには節水型衛生器具を使用する。	C 緑化 「札幌市緑の保全と創出に関する条例」により、敷地の20%以上の緑地を確保する。また、条例による緑化基準に加えて、エントランス付近に高木5本、中木15本を設ける。
D 雪処理 敷地南西車路を冬の雪堆積スペースとし、適宜敷地外へ搬出する。		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE Sapporo2014v1.2
(仮称)ツクイ札幌山鼻

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2

■評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階				重点評価項目		■A: 省エネルギー	■B: 省資源	■C: 緑化	■D: 雪処理				
配慮項目		重点評価項目				環境配慮設計の概要記入欄				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		A	B	C	D					評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質															
Q1 室内環境											0.40		-		2.7
1 音環境										2.2	0.15	2.2	1.00		2.2
1.1 騒音										3.0	0.42	3.0	0.42		
1.2 遮音										2.0	0.42	2.0	0.42		
1 開口部遮音性能										3.0	0.52	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能										1.0	0.48	1.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										-	-	1.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										-	-	3.0	0.20		
1.3 吸音										1.0	0.16	1.0	0.16		
2 温熱環境										1.5	0.35	1.7	1.00		1.6
2.1 室温制御										2.1	0.50	2.5	0.50		
1 室温										3.0	0.43	3.0	0.58		
2 外皮性能	A									2.0	0.28	2.0	0.42		
3 ゾーン別制御性										1.0	0.30	-	-		
2.2 湿度制御										1.0	0.20	1.0	0.20		
2.3 空調方式										1.0	0.30	1.0	0.30		
3 光・視環境										3.1	0.25	3.7	1.00		3.5
3.1 昼光利用										3.0	0.30	4.1	0.30		
1 昼光率										3.0	0.60	5.0	0.58		
2 方位別開口										-	-	3.0	0.06		
3 昼光利用設備	A									3.0	0.40	3.0	0.36		
3.2 グレア対策										3.0	0.30	4.0	0.30		
1 昼光制御	A									3.0	1.00	4.0	1.00		
2 絞り込み対策										-	-	-	-		
3.3 照度										4.0	0.15	4.0	0.15		
3.4 照明制御										3.0	0.25	3.0	0.25		
4 空気質環境										3.3	0.25	3.1	1.00		3.2
4.1 発生源対策										3.0	0.52	3.0	0.63		
1 化学汚染物質										3.0	1.00	3.0	1.00		
2 アスベスト対策										-	-	-	-		
4.2 換気										3.0	0.32	3.3	0.38		
1 換気量										5.0	0.50	5.0	0.33		
2 自然換気性能										-	-	4.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮										1.0	0.50	1.0	0.33		
4.3 運用管理										5.0	0.16	-	-		
1 CO ₂ の監視										-	-	-	-		
2 喫煙の制御										5.0	1.00	-	-		
共用部分は建物全体の禁煙が確認されている。										-	-	-	-		
Q2 サービス性能										-	0.30	-	-		3.2
1 機能性										3.3	0.40	3.8	1.00		3.5
1.1 機能性・使いやすさ										3.0	0.40	4.3	0.60		
1 広さ・収納性										-	-	5.0	0.80		
2 高度情報通信設備対応										-	-	2.0	0.20		
3 バリアフリー計画										3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性										3.0	0.30	3.0	0.40		
1 広さ感・景観										-	-	3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース										-	-	-	-		
3 内装計画										3.0	1.00	3.0	0.50		
1.3 維持管理										4.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計										4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保										4.0	0.50	-	-		
4 衛生管理業務										-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性										2.9	0.30	-	-		2.9
2.1 耐震・免震										3.0	0.50	-	-		
1 耐震性										3.0	0.80	-	-		
2 免震・制振性能										3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数										3.3	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数										3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										4.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔										3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性										2.4	0.20	-	-		
1 空調・換気設備										3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備										2.0	0.20	-	-		
3 電気設備										3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法										1.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備										3.0	0.20	-	-		
3 対応性・更新性										3.4	0.30	2.8	1.00		3.0
3.1 空間のゆとり										3.4	0.24	2.6	0.50		
1 階高のゆとり										3.0	0.60	3.0	0.60		
2 空間の形状・自由さ										4.0	0.40	2.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり										3.0	0.24	3.0	0.50		
3.3 設備の更新性										3.6	0.52	-	-		
1 空調配管の更新性										3.0	0.20	-	-		
2 給排水管の更新性										3.0	0.20	-	-		
3 電気配線の更新性										3.0	0.10	-	-		
4 通信配線の更新性										3.0	0.10	-	-		

CASBEE Sapporo2014v1.2 (仮称)ツクイ札幌山鼻				欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2 ■評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)											
スコアシート		実施設計段階		重点評価項目		■A:省エネルギー		■B:省資源		■C:緑化		■D:雪処理					
配慮項目				重点評価項目		環境配慮設計の概要記入欄				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体			
				A	B	C	D					評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
5 設備機器の更新性								主要設備機器は外部、もしくは外部から直接出入り可能な位置に設置。				5.0	0.20				
6 バックアップスペースの確保								緑地を一時的なバックアップスペースとして使用する。				4.0	0.20				
Q3 室外環境(敷地内)												-	0.30	-	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出						C						2.0	0.30	+	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮						C						3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮												2.5	0.30	+	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上							D					3.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上					B	C						2.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性												-	-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー												-	0.40	-	-	-	3.1
1 建物外皮の熱負荷抑制				A				(非住宅部分)BPI _m =0.79。				3.3	0.20			-	3.3
2 自然エネルギー利用				A								2.7	0.10			-	2.7
3 設備システムの高効率化								BEI 非住宅 0.74 住宅(専有部) 1.06				3.7	0.50			-	3.7
集合住宅以外の評価(3a.3b)				A				消費電力の小さいLED照明器具を使用。				4.0	0.80			-	
集合住宅の評価(3c)				A								1.1	0.20			-	
4 効率的運用												2.0	0.20			-	2.0
集合住宅以外の評価												2.0	0.80			-	
4.1 モニタリング				A								3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				A								1.0	0.50			-	
集合住宅の評価												2.0	0.20			+	
4.1 モニタリング				A								3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				A								1.0	0.50			-	
LR2 資源・マテリアル												-	0.30	-	-	-	3.2
1 水資源保護												3.0	0.20			-	3.0
1.1 節水												3.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用												3.0	0.60			-	
1 雨水利用システム導入の有無												3.0	0.70			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無												3.0	0.30			+	
2 非再生性資源の使用量削減												3.5	0.60			-	3.5
2.1 材料使用量の削減					B							2.0	0.10			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					B							3.0	0.20			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					B			—				3.0	0.20			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					B			外構砕石に「再生砕石」を使用、内装タイルに「ブレイン50(グリーン購入法)」を使用。				4.0	0.20			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					B							3.0	0.10			+	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					B			躯体+軽鉄+仕上材で容易に分別可能。浴室はUBを使用。				5.0	0.20			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避												2.9	0.20			-	2.9
3.1 有害物質を含まない材料の使用								内装床、壁の施工には有害物質を含まない接着材を使用。				4.0	0.30			-	
3.2 フロン・ハロンの回避												2.5	0.70			-	
1 消火剤					B							-	-			-	
2 発泡剤(断熱材等)					B							2.0	0.50			-	
3 冷媒					B							3.0	0.50			-	
LR3 敷地外環境												-	0.30	-	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮					B			ライフサイクルCO2排出率=85%				3.5	0.33			-	3.5
2 地域環境への配慮												2.9	0.33			-	2.9
2.1 大気汚染防止					B							3.0	0.25			-	
2.2 温熱環境悪化の改善					B	C	D					3.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制												2.7	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減					B							2.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制												3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制												3.0	0.25			+	
4 廃棄物処理負荷抑制					B		D					3.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮												3.1	0.33			-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止												3.0	0.40			+	
1 騒音												3.0	1.00			-	
2 振動												-	-			-	
3 悪臭												-	-			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制												3.0	0.40			-	
1 風害の抑制												3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制												1.0	-			-	
3 日照障害の抑制												3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制												3.7	0.20			+	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策								主要な屋外照明は上方光束比0%の器具を使用。広告物照明は行わない。				4.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策												3.0	0.30			-	

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

CASBEE札幌



重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2014(ver.1.3)

1 建物概要

建物名称	(仮称)ツクイ札幌山鼻	BEE	1.0	BEEランク	B ⁺
建物用途	病院,集合住宅,工場	総合評価 ★★★★★			
延床面積	2,940.94 m ²				

2 重点項目への取り組み

レーダーチャート

地球温暖化対策

最重点項目

省エネルギー



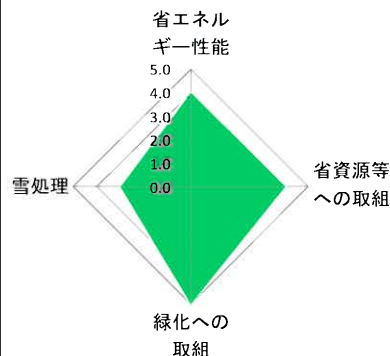
省資源等



緑化



雪処理



この建物は特に

緑化への取組

が優れています

3. 設計上の配慮事項とCASBEEスコア

A 省エネルギー				合計	18点	／24点
Q1 温熱環境	スコア	1.0	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	3.0	
Q1 光・視環境	スコア	4.0	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.0	
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	7.0	
			LR1 効率的運用	スコア	2.0	
B 省資源等				合計	16点	／23点
Q2 耐用性・信頼性	スコア	1.0	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	6.0	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.0	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.0	
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	4.0	
			LR3 地域環境への配慮	スコア	3.0	
C 緑化				合計	9点	／16点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	2.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	2.0	
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	4.0				
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.0				
D 雪処理				合計	1点	／3点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0	

4 設計上の配慮事項

A 省エネルギー			
窓には「二重サッシ」、屋根には「遮熱仕上塗料」を使用し外気の影響を低減する。設備機器には高効率空調機、LED照明を使用し省エネルギーに取り組む。			
B 省資源等		C 緑化	D 雪処理
建材の定尺を考慮した天井高さの設定や、区画壁にt=12.5厚のPBを使用し一般壁へ転用可能にするなど、材料ロスを減らす工夫をしている。トイレには節水型衛生器具を使用する。		「札幌市緑の保全と創出に関する条例」により、敷地の20%以上の緑地を確保する。また、条例による緑化基準に加えて、エントランス付近に高木5本、中木15本を設ける。	敷地南西車路を冬期の雪堆積スペースとし、適宜敷地外へ搬出する。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される